

神の家日記

神の家進捗状況

神の家建設委員会
河合恭久



信徒のおもいたつる三河本苑神の家

皆様のおもいたつるの結晶、信徒のおもいたつる三河本苑神の家が、おかげをもちまして四月末内装工事もほぼ終わり建屋が完成いたしました。

また天の三体の神様をお祀りする遷座祭、鎮座祭を五月三十日(月)午後六時に行なう予定であります。

五月十五日春の大祭終了後、皆様のご奉仕をいただきたく思いますのでよろしく願います。

尚、六月の本苑月次祭には本苑竣成奉告祭、市杵島姫命春季大祭を執り行わせていただきます。

多数のご参拝をお待ちいたしております。



6月号
2022・6 No.481
(発行者)
大本三河本苑
〒443-0031
蒲郡市竹島町28-5
TEL 0533-69-7518
FAX 0533-69-1455

4月24日亀岡万祥殿の献勞に参加させて頂きました。約2年の間コロナ感染防止の為、奉仕活動が中止となっていました。が、昨年12月より再開され、その時が誠心会長としての初めての参加となりました。前回は大雪情報が出され、高速道に滑り止め規制が出されていたため参加人数は5名でした。

しかし、今回は14名の方々に参加をして頂く事が出来ました。献勞奉仕の内容はお掃除です。普段は遠くから見るだけの場所での、この時だけは入ることが出来る御神域での清掃作業をさせて頂くことが出来ます。参加させて頂いた人たちだけ味わ



献勞の皆さま

える喜びを体験出来るのではないのでしょうか。また、休憩時には本部の方との懇談等もしながら過ごせるのも、ご奉仕のありがたさかもしれません。

これからも多くの人に参加して頂き、心地の良い疲労を味わっていただければと思います。

万祥殿献勞奉仕に参加して

誠心会長 三浦 浩

お知らせ

直心会研修会のご案内

【日時】令和4年6月26日(日)

【集合】亀岡天恩郷

●出雲大神宮を巡る。午後から正食の講話

・会費/三千元 ・十五時終了予定

直心会



- 6月の行事
- 19日(日) 本苑六月月次祭
- 26日(日) 直心会研修会(亀岡)
- 7月の行事
- 2日(土) 直心会長生殿献勞
- 17日(日) 本苑七月月次祭
- 24日(日) 誠心会万祥殿献勞
- 未定 少年夏期学級 (中止)

三河本苑公式LINE



↑ コチラから
本苑だより更新中

災害時の備えは、できていますか？

特任宣伝使 三 矢 直

大本人類愛善会のAIZEN100のチェック項目の中に「災害に備えて食料・飲料を備蓄しておく」とあります。近年、全国各地で非常に地震の発生が多くなっております。このような自然災害に対策をしておくべきです。職業柄、以前、阪神大震災や東日本大震災に緊急援助隊として現地で活動した経験を活かし、少しまとめてみました。

◆災害に遭う前に 生活のために備蓄

ふだんから日持ちのする飲み物や食料、それに日用品を多めに買い置きしておき、賞味期限が近づいたものから使って、その分を買い足していく方法です。必要な量を無理なく備蓄することができます。まず、大切なのは「水」と「食料」で備蓄しておく量は最低3日分ですが、望ましいのは

1週間分程度とされています。

賞味期限が長期保存用の水・食料も販売されていて、組み合わせることで備蓄できます。わが家では、以前から停電・断水対策として自家発電機（移動式）があります。自宅の井戸水をくみ上げ、飲料水やトイレの水、お風呂の水、洗濯などに使用します。また冬期には暖房を兼ね、石油ストーブやカセットコンロにて

食事の煮炊きが出来るようにしています。災害時の食事は栄養に偏りがちになります。肉や魚、野菜など、必要な栄養を取れるように缶詰や野菜ジュースを備えておくことがおすすめです。

最後に、避難所の生活に備えて準備しておく便利なものをまとめます。

- 日常に使うものは、いつもより多めにストックしておくといざという時に役立ちます。
- すべてを一度に揃えるのは難しいかも知れませんが、災害は明日起きるかもしれません。
- 被災後に困らないよう、日常から備蓄を意識した生活をすることが大切です。

「人の使命」

「日出處生伯橋上巻」より出口出庵 特任宣伝使 芝田豊海

連載 大本之ぼね話

現界は平面的であり霊界は立体的である。故に現界では天国的の人と地獄的の人が、一堂に会して相語ることが許されている。（霊界では決してそんなことはない。）

これ全く肉体なる物質の殻を有するお陰である。何となれば物質は元来平面的であるからである。即ち元来、立体的なる靈魂を物質なる肉の宮に宿らしめて強いて平面的ならしめ、相互に訓練と陶冶（とうや）とをなさしめているわけである。

この意味からして、現界は一面、靈魂の焼直し場であり修羅場である。で又、それだけ精神的には束縛されており苦悩の多い所などである。元来が物質的世界であるだけ、靈魂上には無理の多いわけである。しかし、人間なるものは元来半霊半物質の造られていて、一面霊界にも通じまた一面、自然界に仕つかまつって神の代理として現界を処理し得るべき能力があるのである。それが現代ではしだいに物質のみに墮した結果、霊界の光より遠ざかり真に行くべき途を失い、漸次困苦（ざんじこんく）の淵に沈まんとしている状態なのである。

故にもし人間が真に、その使命を自覚し神界との関係が判つて来て惟神の大道にさえ立ち返ったなら、元来半霊半物質的に造られているのだから、さしたる精神的苦悩もななくして日を送ることが出来る筈なのであり、また出来ねばならぬのである。現代の如く精神上の悩みの多いのはこれ全く物質にのみ墮して主たる靈的職能を放棄しているが為である。この事は個人的にも心と肉体との関係をよく考えてむれば分かる。

肉体の保持營養の為に心にもない業（わざ）にいそしんでいることの如何（いかに）苦痛であるかは誰（たれ）も知っていることである。人間が真に大胆に第一義的生活さえ飯（かえ）る事ができたら、それで実は何もいふ事はないのである。

霊界よりの内流即ち絶えざる心の最奥より閃きをよく受取り、これに従って道を進みさえしたならば、例え外見は如何にあらうとも、その人にとってはそれが真なのであり、従って愉快と興味とに常にひたることのできるのである。これが生活の秘義（ひぎ）なのである。

私の体験談 誰かに首根っこを

三河豊田支部 杉山 孝

昭和51年、人生で目の前が真っ暗になる出来事が起こった。仕事を終え寮に戻る最後の曲がり角、目の前には名鉄「東岡崎行」のバスがウィンカーを出して停車中であった。

手前の横断陸橋を左折してくぐろうとした瞬間、目の前には人がいて「アッ！」と思ったら、その人が両手を上げて後ろに倒れこんだ。私はぐにゅと何かを車が乗りあげる感触が「人を轢いてしまった！」と思い、目の前が真っ暗！

エンジンを切ってドアを開け、車の前に行くまでのほんの数秒の間に「救急車を呼び、警察に連絡。お葬式の後に刑務所？出てきたら相手の方の賠償責任？自分の人生、終わった。」これだけのことが走馬灯のように頭に浮かび夢遊病者みたいな状態で事故現場へ。

するとそこには車で轢いたと思った人が5メートルくらい離れた所に呆然と立っていた。「どうされたですか？」の問いに「道路に飛び出した瞬間に車が現れ、轢かれたと思ったら、誰かに首根っこを掴まれ引っ張られたんです。そしたらグツと宙を飛んでここに立っていました」と。ズボンに膝の部分が破れていましたが、他に損傷は無し。車はと見ると、タイヤの後ろにその人のカバンと傘が潰れていました。乗り上げた感触は、どうもカバンを轢いていた時のようです。バスに乗り遅れた相手を東岡崎まで送っていき、喫茶店で今後のための話合い。関連会社の人でしたので翌日上司を通して弁償（服・カバン・傘）の約束をし、恐縮がされましたが一件落着。あの晩の相手の「誰かが首根っこを」の言葉に、「神さま有り難うございました。」と感謝する自分がいました。